理事長挨拶

理事長　片山　和郎

「行不由徑」（ゆくにこみちによらず）

昨年の総代会において、任期２年の新役員を選任していただき、その新執行部による最初の業績を開示する機会（総代会）を得ました。

収益事業を行っている以上、新理事長としては、新執行部が行う時代に業績が下降するのではないかという､漠とした不安がありましたが、関東信越地区で組合員や賛助会員が一番少ない新潟県でありながら、過年度の役員の皆様が弛まざる革新的な業務拡大策の先鞭をつけていただいたことの結果、常に上位に位置しながら、今期も自信をもって報告できる成果を残すことができました。

幸いにも、収益も大幅にアップし、そのアップ分に対応する事業費用も、「加入する組合員の利益の為に」という協同組合の基本理念に則り、組合員・賛助会員に向け、後半から、更なる特別な拠出をすることができました。

あんしん財団・小規模企業共済等の獲得実績を契約創設時まで遡り、実績をランク付けし、その業績に応えられるような手数料を交付することとしました。事務局設置地域には地域・支部運営経費を上乗せ支出しました。加えて図書の無償配付額を１万円までアップしました。税理士会へも「研修会への共催」等12事業の各種共催事業を通じ間接的に会員へバックアップをすることができました。

（事業の詳細は事業報告書をご覧ください。）

第一に、収益に直接貢献した組合員・賛助会員へのインセンティブを中心としながらも、

第二に、税理士会支部連合会の研修等の共催事業や地域・支部への地域運営費等を通じ全会員等へも間接的に配慮し、

第三に、残りは粛々と納税する。

という三方良しのバランスのとれた決算となったと思います。

県税協が担うべきこの基本的な考え方は今年度も踏襲し､実行していきたいと考えております。

今、各県税協共通の課題として、役員の組織化が難しくなっています。強制加入の税理士会のように、会費という収益源がありません。常に「入り」を考えた行動、即ち主要収益源である生命保険各社やあんしん財団等との業務推進協議会の開催等の応対が欠かせないことにより、その対応にジレンマを感じていることが大きな要因と考えられます。

諸手を挙げて理解されない現実と、飲食の機会が多いことだけを捉えての批評があるのも事実です。

「行くに徑に由らず」(ゆくにこみちによらず)と日本の漢学の祖と言われている三条市（旧下田村）出身の諸橋轍次博士は「うら道や近道に逃げないで正々堂々と王道を歩みなさい」と孔子（論語）をもとに教えています。

何のため？誰のため？を俯瞰しつつ、規範をもって行動している、役員の皆様には敬服の次第とともに、組合員等一人一人の力を結集できます環境を整えることの大切さを感じております。

新年度である平成26年度も協同組合の基本理念を役員一同、胸に刻み、邁進する所存でありますので、皆様方のより一層のご理解とご協力をお願いし、挨拶とさせて頂きます。